



左: エリッサ・アルベン氏 右: ウェンディ・カトラー

2024年10月1日、ワシントンDCで働く女性を応援するJ-WIP(※)による第27回目のスピーカーイベントを開催いたしました。

当日は、アジア・ソサエティ政策研究所(ASPI)副所長兼アジア・ソサエティ・ワシントンD.C.オフィスマネージングディレクターを務めるウェンディ・カトラー氏と、ファイザー社でグローバル・イノベーション/貿易政策/国際政策関係担当バイスプレジデントを務めるエリッサ・アルベン氏が、講師として登壇されました。あいにく雨が降りしきる天気でしたが、会場には男女問わず、30名の商工会会員・非会員が集まり、「Art of Negotiations (交渉術)」について活発な意見交換をしました。

カトラー氏は、約30年間にわたり米国通商代表部(USTR)で、米韓自由貿易協定、環太平洋パートナーシップ協定(TPP)、米中交渉、WTO金融サービス交渉など、さまざまな通商交渉に従事し、USTRを退職する直前には米国通商代表部代表補

を務められました。日米経済協議には、1980年代末の日米構造協議(SII)から携わり、日本政府、日本企業には「タフ・ネゴシエーター」として長年知られた著名な方です。

アルベン氏も、米国通商代表部次官補(執行・監視担当)/副法律顧問として、WTO紛争案件や米国の自由貿易協定交渉等を担当し、米韓自由貿易協定等では法律顧問としてカトラー氏と二人三脚で交渉に携わりました。また米連邦議会上院の財務委員会で通商担当法律顧問を務め、米国の国内承認プロセスに欠かせない大統領貿易促進権限法(TPA)の作成などに関わりました。

交渉のプロであるお二人には、オフレコを条件に実際にかかわった様々な交渉の舞台裏などを織り交ぜ、「交渉術」の醍醐味を語っていただきました。

特に通商交渉は、国内外のマルチステークホルダー・エンゲージメントが不可欠です。日々のビジネスにも欠かせないこうしたエンゲージメントを、複雑極まる交渉の中で、どのように実行されたのか、その秘訣や、性別や文化、年代の違いが交渉の中でどのように影響したか等について、具体的にお話いただきました。

お二人には、そもそも通商交渉に携わるきっかけや、ワーキングマザーながら、夜中の電話会議や出張が多い通商交渉にどのように対応されたのかといったプライベートなお話も披露していただきました。またお二人とも次世代の交渉官育成に熱心で、特にカトラー氏は、ASPIプログラム「将来の女性通商交渉リーダー」を立ち上げ、日本を含むアジア地域の女性交渉官育成にも注力されています。

今回のイベントは、強面とみられがちな米国通商交渉のプロ中のプロの方々の人となりを知る機会にもなりました。

(注)当イベントは原則オフレコでしたが、公表情報を基に講師の承認を得た情報を盛り込んでいます。

※J-WIP(Japanese Women in the Professions in Washington DC): ワシントン地区で働く日本女性へのキャリア育成支援活動。2016年1月から、ワシントン日本商工会として支援。

